

〈論文〉

韓国語の第三者敬語に関する一考察 —日本語と韓国語の調査結果との比較を通して—

金 兌妍

要旨

敬語の用法において、日本語は相対敬語、韓国語は絶対敬語であることは広く知られた事実である。しかし、第三者敬語の使用状況を調査すると、むしろ日本語では絶対敬語、韓国語では相対敬語的にみられる場合が観察される。本稿は、アンケート調査の結果をもとに、日韓両言語で一般的な用法に従わない敬語行動が現れた原因について考察した。

1. はじめに

日本語と韓国語は敬語専用の文法形式があり、目上の人に対して基本的には尊敬語を用いなければならない。例えば、目上の先生に対して「先生がきた」ではなく「先生がいらっしゃった」と尊敬語で表現する。しかし、日本語と韓国語の敬語には相違点もある。いわゆる、日本語は相対敬語と言われ、韓国語は絶対敬語と言われる。相対敬語では、話し手は聞き手や第三者、ウチ・ソト、場面などを考慮し、敬語表現を変える。絶対敬語では、話し手にとって敬語を用いるべき人物は決まっており、その人物に対しては常に敬語表現を用いる。会社の社長について話す際、日本語では、社内では尊敬語を用いる一方、取引先など社外の人に対しては尊敬語を用いない。それに対して韓国語では、会社の内でも外でも尊敬語を用いる。

日本語の敬語は素材敬語と対者敬語に分類できる（辻村 1977）。素材敬語とは尊敬語・謙譲語・美化語のことで、聞き手、第三者、物や事柄に対して使う。対者敬語とは丁寧語のことで、聞き手に対して使う。近年、日本語の敬語の使用場面においては「素材敬語の対者敬語化」が起きていると指摘される（井上 1999^{註1}、秋元 2005、中川 2012）。素材敬語の対者敬語化とは、対者（聞き手）によって第三者に対する素材敬語に変化がみられることである。話し手は、聞き手が対者敬語を用いる対象であれば第三者に対しても尊敬語を用い、聞き手が対者敬語を用いない対象であれば第三者に対しても尊敬語を用いなくなるという。

相対敬語と言われる日本語では、敬語の使用場面で聞き手、第三者、ウチ・ソト、場面などを総合的に考慮するが、その中でも特に聞き手を重視しているように思われる。また、韓国語も日本語のように素材敬語と対者敬語に分類することができる。絶対敬語と言われる韓国語では第三者に対する素材敬語をどのように用いるのだろうか。聞き手に関係なく尊敬語を用いるのだろうか。それとも、日本語のように素材敬語の対者敬語化の現象は起きているのだろうか。本稿では、韓国語の第三者に対する表現について調査し、日本語と韓国語の先行研究の調査結果と比較する。

2. 先行研究

本節で概観する先行研究はすべて大学生を調査対象にしている。秋元（2005）^{註2}の調査結果では日本語で素材敬語の対者敬語化が起きていることが明らかになった。日本人大学生は、聞き手が先生や面接官の場合は第三者の先生に対して80～90%が尊敬語を選択したのに対し、聞き手が友人でかつその場に先生がいない場合は第三者の先生に対して9.3%のみが尊敬語を選択した。なお、聞き手が友人でかつその場に先生がいる場合は、64.6%が尊敬語を選択した。ここから、日本語では目の前の聞き手だけではなく同席者によっても第三者に対する敬語の使用率が変化することが読み取れる。また、中川（2012）^{註3}の調査結果でも日本語の素材敬語の対者敬語化の現象が観察された。日本人大学生は、聞き手が先輩や教授の時より友人の時に第三者に対する尊敬語の選択率が低くなった。ただし例外もあり、聞き手が教授の時より先輩やOB/OGの時には第三者に対する尊敬語の選択率が高くなった。中川（2012）はこの結果について、ウチ・ソト関係の認識や若者の敬語使用意識の変化が起因したと解釈した。

김순임（2008）^{註4}は日本語と韓国語の第三者敬語について調査し両言語を比較した。聞き手が友人の時、第三者の指導教授に対して日本人大学生は8%、韓国語大学生は81.2%が尊敬語を用いた。この数値からも、やはり日本語では素材敬語の対者敬語化が起きていると言える。しかし、韓国語では80%以上が尊敬語を用いているため、素材敬語の対者敬語化は起きていないと考えられる。김순임（2008）は、聞き手が学長で第三者が指導教授の時、第三者の指導教授に対する敬語使用に日韓両言語で混乱がみられると指摘した。この場合、相対敬語と言われる日本語では第三者の指導教授に対して尊敬語を用いないと推測できるが、50%が尊敬語を用いた。中川（2012）では同場面で김순임（2008）の割合よりさらに高い83.3%が尊敬語を選択した。この2つの先行研究の調査結果の数値には大差があるが、どちらも予測外の結果であることに変わりはない^{註5}。では、この場合、韓国語ではどうだろうか。韓国語では聞き手が学長で第三者が指導教授の時、第三者の指導教授に対して相対敬語的な敬語の用法である「압존법（圧存法）^{註6}」を適用すべきだが、調査結果では約30%しか適用していなかった。김순임（2008）は日本語と韓国語それぞれの予測外の結果について、日本語では素材敬語の対者敬語化、韓国語では目上の聞き手に丁寧な言語を用いようとする意識が働いたと解釈した。

本稿では、김순임（2008）の調査から18年経過した韓国語の第三者敬語に対する尊敬語の選択状況について調査する^{註7}。その後、韓国語と日本語の先行研究の調査結果を比較し、調査結果の数値が意味することについて考察を行う。

3. 調査

本稿の調査は、秋元（2005）の調査票をもとに韓国語で調査票を作成し、韓国語大学生を対象にアンケート調査を行なった（資料1及び資料2）。それぞれの調査概要を表1に示す。

秋元（2005）は、日本人大学生を対象に調査を行なった。第三者に「先生」と「友人」、

表1 韓国語と日本語の調査概要

	韓国語	日本語 (秋元 2005)
実施日	2019年11月	2003年12月
調査対象	韓国・釜山のP大学の大学生106名	日本・埼玉のS大学の大学生118名
調査方法	Google Formを使用	調査票を配布、後日回収

聞き手に「直接先生に対して」、「友人（先生がいる場合）」、「友人（先生がいない場合）」、「他の先生」、「面接官」を設定した。選択項目は「きた・いらっしゃった・きやがった」の3つで、質問内容は「昨日、先生・友人が自分の家に訪問した翌日に『〇〇先生（さん・君）が昨日（ ）ときに～』という場合、どの表現を使用するか」である^{注8}。

韓国語については秋元（2005）の調査票をもとに調査を行なったが、いくつかの選択肢を追加した。まず、聞き手の「他の先生」を「교수보다 나이와 직책이 높은 교수（教授より年齢と地位が高い教授）」と「교수보다 나이와 직책이 낮은 교수（教授より年齢と地位が低い教授）」の2項目に分けた。これは、話し手である大学生が、聞き手の先生と第三者の先生の間で上下や地位をどう捉えているかについて調査するためである。また、韓国語にのみ存在する尊敬助詞「께서（が）」を選択肢に入れた。さらに、「〇〇先生が」を「〇〇교수가（教授が）」と「〇〇교수님이（教授様が）」の2項目に分けた。加えて、選択肢にはない答えもあると考え、「기타（その他）」も入れた。

なお、本稿では日本語と韓国語を比較するため、韓国語のみの選択肢については言及せず、文末の尊敬語の選択有無に着目する。

4. 調査結果

4.1 第三者が「先生」の場合

日本語と韓国語の調査結果を比較すると、聞き手が「友人」の時と「他の先生」の時に、第三者の先生に対する表現の選択率に相違点がみられた。調査結果を表2に示す。

4.1.1 第三者が「先生」で、聞き手の属性が「友人」の場合

日本語では、聞き手が先生や面接官の時、第三者の先生に対して80～90%が尊敬語を選択する。一方、聞き手が友人でかつその場に先生がいない場合、第三者の先生に対して9.3%のみが尊敬語を選択した。ただし、聞き手が友人でかつその場に先生がいる場合、尊敬語を選択する人は64.4%と、半数以上になる。日本語では聞き手が先生や面接官の時と友人の時に、尊敬語の選択率が大きく変化する。このことから、素材敬語の対者敬語化が起きていると言える。また、同席している人の属性によってもその数値が変化している。敬語の使用場面では、目の前の聞き手だけではなく、同席者も意識して表現を選択していると考えられる。

表2 第三者が「先生」の場合の表現の選択率 (%)

聞き手の属性	韓国語		日本語 (秋元 2005)	
	来た	いらっしゃった	来た	いらっしゃった
直接先生に対して	5.7	94.3	13.6	86.4
友人 (先生がいる場合)	3.8	96.2	35.6	64.4
友人 (先生がいない場合)	38.1	61.9	90.7	9.3
他の先生 (先生より上位者)	32.4	67.6	16.1	83.9
他の先生 (先生より下位者)	3.8	96.2		
面接官	11.4	88.6	9.3	90.7
合計	100		100	

韓国語でも、聞き手が先生や面接官の時、第三者の先生に対して80~90%が尊敬語を選択する。聞き手が友人でかつ先生がいない時、第三者の先生に対する尊敬語の選択率が下がるが、それでも61.9%と半数以上の人々が尊敬語を選択している。なお、18年前の김순임 (2008) の調査結果では、聞き手が友人でかつ先生がいない場合でも第三者の先生に対して81.2%が尊敬語を用いた。つまり、本稿の調査結果は18年前より約20%低い。この数値の変化は、韓国語では18年前より素材敬語の対者敬語化が進行していることを示唆する。ただし、61.9%とまだ半数以上が尊敬語を選択している。素材敬語の対者敬語化が今後さらに進んでいくかどうかについては、時間が経過してから再調査を行う必要があるだろう。また、韓国語でも日本語のように同席者を意識して尊敬語の選択率が変化しており、第三者に対する尊敬語の選択に同席者が影響すると考えられる。

4.1.2 第三者が「先生」で、聞き手の属性が「他の先生」の場合

本節では、聞き手の「他の先生」を、年齢や地位が高い先生 (以下、「先生 (上)」と呼ぶ) と年齢や地位が低い先生 (以下、「先生 (下)」と呼ぶ) に分け、調査結果を述べる。例えば、先生 (上) は60歳の教授、先生 (下) は40歳の助教授である。

第三者が先生 (下) で聞き手が先生 (上) の時、相対敬語と言われる日本語では第三者に対して尊敬語を選択しないことが予測される。一方、絶対敬語と言われる韓国語では第三者に対して尊敬語を選択するはずである。しかし、両言語を比較して見ると、日本語では絶対敬語的、韓国語では相対敬語的にみえる結果が観察された。表3に第三者と聞き手が「先生」の場合の尊敬語の選択率を示した。

中川 (2012) の日本語の調査結果では、聞き手が先生 (下) の場合は第三者の先生 (上) に対して90.5%が、聞き手が先生 (上) の場合は第三者の先生 (下) に対して83.3%が尊敬語を選択している。いずれの場合でも尊敬語を用いる傾向があり、絶対敬語的にみえる^{註9}。

表3 第三者と聞き手が「先生」の場合の尊敬語の選択率^{注10}(%)

聞き手の属性	韓国語		日本語	
	筆者	김순임 (2008)	中川 (2012)	김순임 (2008)
先生 (上)	67.6	69.8	83.3	50.0
先生 (下)	96.2	91.3	90.5	53.2

一方、韓国語では、聞き手が先生（下）の場合は第三者の先生（上）に対して96.2%が尊敬語を選択し、聞き手が先生（上）の場合は第三者の先生（下）に対して67.6%が尊敬語を選択した。韓国語では聞き手と第三者の先生の間上下関係によって約30%の差が出ており、相対敬語的にみえる結果が得られた。第三者と聞き手が先生の場合、なぜ一般的な予測とは異なる結果になったのだろうか。4.2ではその原因について考察を行う。

4.2 日本語と韓国語の予測とは異なる結果

4.2.1 日本語の予測とは異なる結果

日本語では、聞き手が先生（下）の場合は第三者の先生（上）に対して90.5%、聞き手が先生（上）の場合は第三者の先生（下）に対して83.3%が尊敬語を選択している^{注11}。どちらの場合でも尊敬語を用いる傾向があり、絶対敬語的に見える結果である。中川(2012)はこれについて、菊地(1994:120-131)の敬語の適用のルールを用いて解釈している。

菊地(1994)による敬語の<適用>のルール

- ① 敬語上のⅠ人称の人物を高めてはいけない
- ② 敬語上のⅢ人称の人物で、聞き手から見て高める対象とは思われないような人物を高めるのは、聞き手に対して失礼になる。
- ③ 聞き手から見て同等以下の人でも、話し手がその人を高めることで結果的に聞き手のことも立てることになる場合は、その人を高めてよい(②に該当しない)

菊地(1994)のルール②は日本語の敬語に関する一般的な用法で、聞き手が先生（上）の時に第三者の先生（下）を高めることは失礼な言語行動にあたる。しかし、日本語に関する先行研究の調査結果では、聞き手が先生（上）の時に第三者の先生（下）に対する尊敬語の選択率が予測よりはるかに高かった。中川(2012)は、これを可能にするのがルール③の存在であるという。ルール③に従うと、第三者の先生（下）を高めることは、聞き手の先生（上）に失礼になるのではなくむしろ聞き手の先生（上）を立てることになり、ルール②と同じ効果が得られる。中川(2012:81)は、ルール③が適用できるのは「同じ組織・団体に所属していると考えられる場合」で、「学生や学外の人が教授と話す場合、助教授を高める」場合であると述べた。また、ルール③には「高めなければならない」ではなく「高めてよい」と書かれている。つまり、日本語では聞き手が先生（上）で第三者が先生（下）の時、尊敬語を選択してもしなくても、どちらも可能なのである。中川(2012)では、

83.3%がルール③に従っている。多くの日本人大学生がなぜルール②ではなくルール③を選択したのかについては本稿で説明することはできないが、ルール②もルール③も目の前の聞き手を重視して行なった言語行動である。日本語の絶対敬語的に見えるこの調査結果は、実は相対敬語的な考えが原因であることが確認できた。

4.2.2 韓国語の予測とは異なる結果

韓国語では、聞き手が先生（下）の場合に第三者の先生（上）に対して96.2%が尊敬語を選択した。しかし、聞き手が先生（上）の場合には第三者の先生（下）に対して尊敬語を選択する人が減り、67.6%になった。絶対敬語と言われる韓国語だが、相対敬語的な結果が得られた。それはなぜだろうか。韓国語には相対敬語的用法の「압존법（圧存法）」があるためである。압존법（圧存法）とは、話し手にとって聞き手と第三者が共に尊敬語を用いるべき人物であり、かつ聞き手が第三者より上位者である場合に、第三者に対して尊敬語を用いない敬語の用法である。例えば、60歳の教授と話す時、第三者の40歳の助教授について「교수님이 왔을 때（先生が来た時）」と表現しなければならない。韓国では家族関係と師弟関係の2つの人間関係において압존법（圧存法）を適用するとされている。以下は国立国語院がツイッターで発信した内容である。

직장에서는 압존법을 적용하지 않으므로 직위의 상하에 관계없이 ‘김 과장님은 은행에 가셨습니다.’ 라고 표현하는 것이 바릅니다. 압존법은 가족 관계나 사제 관계에서만 씁니다.^{注12} 下線引用者
職場では圧存法を適用しないため、職位の上下に関係なく「金課長は銀行にいらっしゃいました。」と表現することが正しいです。 圧存法は家族関係や師弟関係のみ適用します。

大学生と先生は師弟関係にあたり、압존법（圧存法）を適用することが敬語の正しい用法である。しかし、本稿の調査結果では압존법（圧存法）を適用したのは30%にすぎなかった。なぜだろうか。これについては、고영근・구분관（2018：494）も言及したように、国立国語院が家族関係において압존법（圧存法）の不適用を認めているためだと推測される。国立国語院が発行した『표준언어예절（標準言語礼節）』には、次のルールが示されている。

부모를 조부모께 말할 때에는 ‘할머니, 어머니가 진지 잡수시라고 하였습니다.’ 처럼 부모를 높이지 않는 것이 전통 언어 예절입니다. 그러나 오늘날 이런 전통도 변하여 부모보다 윗분에게도 부모를 높이는 것이 일반화되어 가고 있으므로 현실을 인정하여 ‘할머니, 어머니가 진지 잡수시라고 하였습니다.’ 와 같이 부모를 부모의 윗사람에게 높여 말할 수도 있습니다. 国立国語院（2001:154、下線引用者）

父母を祖父母に言う時は、「おばあさん、お母さんがご飯を召し上がるようにと言いま

した」のように、父母を高めないことが伝統的礼儀です。しかし、近年、このような伝統も変化し、父母より目上の人にも父母を高めることが一般化しているので現実を認め、「おばあさん、お母さんがご飯を召し上がるようにとおっしゃいました」と父母のことを父母より目上の人に高めることもできます。

つまり、国立国語院は家族関係において압존법（圧存法）の適用・不適用の両方の立場を認めているのである。

本稿の調査は家族関係ではなく師弟関係にあたり、師弟関係では압존법（圧存法）の不適用は認められていない。にもかかわらず、約70%が「교수님이 오셨을 때（先生がいらっしゃった時）」という間違っただけの選択をしている。韓国では압존법（圧存法）について学校で教育されるため、압존법（圧存法）を知らない人はおそらくいない。しかし、압존법（圧存法）を適用しない人が約70%もいた。ここからは、韓国人大学生は正しい用法である압존법（圧存法）よりも絶対敬語的な考えを優先していると推測できる。日韓のドラマの会話をもとに敬語の使用状況について分析した韓・梅田（2009：221）でも「韓国語では、話し手は第三者である話題の人物に言及するとき聞き手側がどうかを意識しないで崇めるべき基準に達していれば敬語を使うのである」と指摘されるように、韓国語の敬語使用には絶対敬語的な考えが強く根付いていると考えられる。

韓国人大学生は、本稿の調査でも압존법（圧存法）適用・不適用に迷いがあったように思われる。本稿の調査票には「이 조사는 대학생들이 일상생활에서 대화할 때 실제로 사용하는 언어표현을 조사하기 위한 것으로 정답은 없습니다. 다음 질문에 대해서 본인이 “평소에 사용하시는 표현”을 선택해 주시면 됩니다.（本調査は大学生が日常生活で会話する際、実際に使用する言語表現を調査するものであり、正解はありません。次の質問についてご本人が「普段使用する表現」を選択してください）」と記し、普段使用する表現を選択するように依頼した。しかし、最後のコメント欄には「어려워요（難しいです）」という意見が複数書かれており、その選択に迷いがあったことを窺わせる。

4. 3 第三者が「友人」の場合

第三者が「友人」の場合の調査結果を表4に示す。

日韓両言語とも、「友人」に対して話す際、聞き手がだれであっても尊敬語を用いない傾向がある。ただし、日本語では聞き手が面接官、韓国語では先生と面接官の場合に、尊敬語の選択率が若干高くなった。これは明らかな誤用である。秋元（2005：20）はこの現象について「素材に高い敬意が存在しない場合でも、聞き手との関係上、丁寧な表現を用いるために対者敬語としての効果を期待したものであると考えられる。自身の品格維持のために敬意の高い表現を選択したと考えられる」と述べ、「素材敬語の対者敬語化を表す数値である」と結論づけた。今回の調査結果を見ると、韓国語でも日本語と同様の現象が起きていると言える。この数値をもとに素材敬語の対者敬語化について述べることはできないが、日韓両言語で敬語を用いるべき聞き手や場面で敬語使用率が高くなるという事実

は興味深い。

表4 第三者が「友人」の場合の表現の選択率（％）

聞き手の属性	韓国語		日本語（秋元 2005）	
	来た	いらっしゃった	来た	いらっしゃった
先生に対して	88.6	11.4	99.2	0.8
友人（先生がいる場合）	93.3	6.7	99.2	0.8
友人（先生がいない場合）	98.1	1.9	100	0.0
直接その友人に	98.1	1.9	99.2	0.8
面接官	87.6	12.4	87.3	12.7
合計	100		100	

5. まとめと今後の課題

本稿では韓国語の第三者敬語について2点が明らかになった。1点目に、18年前より素材敬語の対者敬語化が進んでいることが確認された。しかし、聞き手が友人で第三者の先生について話す時、第三者の先生に対して61.9%とまだ半数以上が尊敬語を選択している。次の2点目で言及するように、絶対敬語的な考え方が根強い韓国語においては、素材敬語の対者敬語化が今後もさらに進んでいくかどうかについては予測できず、時間が経過してから再調査を行う必要があるだろう。2点目に、韓国語の敬語の使用場面では絶対敬語的な考えが支配的に働くことが確認された。本稿の調査結果では、압존법（圧存法）に従うべき師弟関係において、正しい用法である압존법（圧存法）を適用した表現よりも絶対敬語を適用した表現のほうが多く選択された。この現象については18年前とほとんど変化しておらず、韓国語の敬語において絶対敬語の存在は根強いものであると考えられる。

本稿では話し手が第三者敬語をいかに選択しているかについて量的調査を行った。しかし、この数値を教育場面などで信頼できる情報として用いるためには、さらなる調査が必要だろう。なぜその表現を選択をしたのか、表現を選択する際の考えなどについての意識調査や、聞き手の観点からの調査も必要であると考え、今後の課題とする。

注

- 注1 井上 (1999: 158) では「敬語の丁寧語化」という用語が用いられた。
- 注2 調査概要は第3節で詳しく紹介する。
- 注3 中川 (2012) は日本人の高校生 158 名と大学生 126 名を対象に聞き手と第三者に「友人」、「先輩」、「OB/OG」(大学生のみを対象)、「教師・教授」を設定し、それぞれの対象に「来る」「する」に対する尊敬語の選択率を調査した。本稿では大学生の「来る」に対する結果のみを用いる。また、中川 (2012) では「来る」に対する尊敬語として「来られる」と「いらっしゃる」の2項目に分けているが、本稿ではこの2項目を合わせて1項目にして示す。
- 注4 召全唎 (2008) は日本人大学生126名と韓国人大学生149名を対象に聞き手と第三者に「友人」、「父」、「先輩」、「指導教授」、「学長」を設定し、それぞれの対象に「この写真は (第三者が) 撮った」の「撮った」に対する表現を自由記入式で調査した。召全唎 (2008) では調査結果を素材敬語を丁寧語を含めたものと含めていないものの2項目に分けたが、本稿ではこの2項目を合わせて1項目にして示す。
- 注5 召全唎 (2008) と中川 (2012) の調査結果に大きな差が出た原因として、選択式と自由記入式という調査方法の違いや、質問内容で用いられた動詞の違い (召全唎2008では「撮る」、中川2012では「来る」) などが考えられる。
- 注6 4.2.2でも言及するように、압존법 (圧存法) とは話し手にとって聞き手と第三者が共に尊敬語を用いるべき人物であり、かつ聞き手が第三者より上位者である場合に、第三者に対して尊敬語を用いない敬語の用法である。
- 注7 召全唎 (2008) の調査は2001年に実施された。
- 注8 秋元 (2005) の選択項目の「きやがった」は尊敬語の選択有無に注目する本稿では「きた」に含めた。
- 注9 召全唎 (2008) と中川 (2012) の分析結果の数値には差があるが、両方の研究で聞き手と第三者が先生の場合に予測とは異なる結果が出たと指摘された。
- 注10 召全唎 (2008) の調査は選択式ではなく自由記入式である。この表では、他の研究と合わせるために選択率という用語で用いた。
- 注11 ここでは日本語の結果として中川 (2012) を挙げているが、その理由は2点ある。1点目に、秋元 (2005) に類似しているためである。秋元 (2005) では聞き手が先生の時、第三者の先生に対して83.9%が尊敬語を選択した。2点目に、中川 (2012) の調査は本稿と同様「来る」とそれに対する尊敬語表現を選択させているためである。
- 注12 国立国語院 Twitter <https://twitter.com/urimal365/status/448679691012935680?s=20&t=bU54-G6mqBM0ITT-WacMA> (2022/12/10 アクセス)

参考文献

- 秋元祐哉 (2005) 「現代日本語における待遇表現の研究—素材敬語の対者敬語化について」
『埼玉大学国語教育論叢』 8, 16-23
- 韓美卿・梅田博之 (2009) 『韓国語の敬語入門—テレビドラマで学ぶ日韓の敬語比較』 大修館書店
- 井上史雄 (1999) 『敬語はこわくない 最新用例と基礎知識』 講談社現代新書
- 菊地康人 (1994) 『敬語』 角川書店
- 김순임 (2008) 「제 3 장 대학생 설문조사 결과로 본 제 3 자 경어 (第 3 章 大学生의アンケート調査結果からみた第三者敬語)」 『한국어와 일본어의 제 3 자 경어의 대조연구 (韓国語と日本語の第 3 者敬語の対照研究)』 51-77
- 고영근・구본관 (2018) 『개정판 우리말 문법론 (改正版韓国語文法論)』 집문당
- 국립국어원 (国立国語院) (2001) 『표준언어예절 (標準言語礼節)』 국립국어원
- 中川勇也 (2012) 「素材敬語の対者敬語化の検証—高校生と大学生に対するアンケート調査をもとに—」 『一橋日本語教育研究』 1, 73-84
- 辻村敏樹 (1977) 「日本語の敬語の構造と特色」 『岩波講座 日本語 4 敬語』 47-94

資料 1 日本語のアンケート (秋元, 2005)

年齢 (才)
性別 (男 ・ 女)

質問に対しては全て「話し言葉」の使用についてお答え下さい。

1、以下のような場合、あなたはどの表現を使用しますか。

選択肢から選んで○をつけて下さい。

(1) 前日自分の家に先生が訪問した翌日の会話

I 直接その先生に対して

自分「〇〇先生が昨日 () 時に～」 (来た・いらっしやった・来やがった)

II 友人に対して (その先生がその場にいる時)

自分「〇〇先生が昨日 () 時に～」 (来た・いらっしやった・来やがった)

III 友人に対して (その先生がその場にはいない時)

自分「〇〇先生が昨日 () 時に～」 (来た・いらっしやった・来やがった)

IV 他の先生に対して

自分「〇〇先生が昨日 () 時に～」 (来た・いらっしやった・来やがった)

V 就職等の面接官に対して

自分「〇〇先生が昨日 () 時に～」 (来た・いらっしやった・来やがった)

(2) 前日自分の家に A さん (君) 《同級生》が訪問した翌日の会話

I 先生に対して

自分「A さん (君) が昨日 () 時に～」 (来た・いらっしやった・来やがった)

II 友人に対して (先生がその場にいる時)

自分「A さん (君) が昨日 () 時に～」 (来た・いらっしやった・来やがった)

III 友人に対して (先生がその場にはいない時)

自分「A さん (君) が昨日 () 時に～」 (来た・いらっしやった・来やがった)

IV 直接 A さん (君) に対して

自分「A さん (君) が昨日 () 時に～」 (来た・いらっしやった・来やがった)

V 就職等の面接官に対して

自分「A さん (君) が昨日 () 時に～」 (来た・いらっしやった・来やがった)

資料 2 韓国語のアンケート (筆者作成)

대학생들이 “대화할 때” 사용하는 언어표현에 대한 설문조사

안녕하세요. 저는 규슈대학교 박사과정에 재학중인 김태연입니다. 바쁘신 와중에 이 조사에 참여해 주셔서 감사합니다. 이 조사는 대학생들이 일상생활에서 대화할 때 실제로 사용하는 언어표현을 조사하기 위한 것으로 정답은 없습니다. 다음 질문에 대해서 본인이 “평소에 사용하시는 표현” 을 선택해 주시면 됩니다.

기본정보

연령

10 대 /20 대 /30 대 /40 대 / 기타

학년

1 학년 /2 학년 /3 학년 /4 학년 / 석사과정생 / 박사과정생

성별

남 / 여

국적

한국 / 한국 외의 다른 나라

1. 어제 당신의 집에 “A 교수” 가 방문했습니다. 다음날 그 일에 대해 다음과 같은 상대에게 말한다면 어떤 표현을 선택하시겠습니까?

I 어제 방문한 A 교수에게 직접

II 친구에게 (A 교수가 그 자리에 같이 있을 때)

III 친구에게 (A 교수가 그 자리에 없을 때)

IV A 교수보다 나이와 직책이 높은 교수에게

V A 교수보다 나이와 직책이 낮은 교수에게

VI 취업 등의 면접관에게

1. の I, II, III, IV, V, VI의 選擇項目

1. A 교수가 왔을 때

2. A 교수께서 왔을 때

3. A 교수님이 왔을 때

4. A 교수님께서 왔을 때

5. A 교수가 오셨을 때

6. A 교수께서 오셨을 때

7. A 교수님이 오셨을 때

8. A 교수님께서 오셨을 때

9. 기타

2. 어제 당신의 집에 “동갑친구 B”가 방문하였습니다. 다음날 그 일에 대해 다음과 같은 상대에게 말한다면 어떤 표현을 선택하시겠습니까?

I 교수에게

II 다른 친구에게 (교수가 그 자리에 같이 있을 때)

III 다른 친구에게 (교수가 그 자리에 없을 때)

IV 직접 그 동갑친구 B에게

V 취업 등의 면접관에게

2. の I, II, III, IV, V の 選 択 項 目

1. B가 왔을 때

2. B께서 왔을 때

3. B씨가 왔을 때

4. B씨께서 왔을 때

5. B가 오셨을 때

6. B께서 오셨을 때

7. B씨가 오셨을 때

8. B씨께서 오셨을 때

9. 기타

3. 이 조사에 대한 응답자의 의견

이 조사에 대해 개선할 점이나 의견 등이 있으시면 자유롭게 적어 주세요.